

いんてりあ  
ア・ラ・カルト

暮らし快適術

【50】

上原牧子

# 設計段階から計画

快適収納を考える 最終回

生活スタイルや  
収納方法を考慮

住宅における収納空間には建築のときに組み込まれる造作家具や建築の一部となる押入れやウォークインクローゼット、建築後に設置する置き家具などの種類があります。設計段階から生活スタイルや収納方法を考慮して収納計画を進めるとよい

でしょう。

収納方法は各家庭の生活スタイルや価値観によってそれぞれですが、ベースになる収納計画は建築と一体となった家具をお薦めします。建築が終わっていき家具選びとなると、全体との調和を考えながらそのスペースにちょうど合う家具を探すことは難しいものです。せっかくきれいに造った家が家具でバランスが悪くなるのはよく見かける光景です。少し値段は高くつくかもしれませんが、設計段階で造作家具を計画すれば、キッチンとリビングの間仕切りの役割も果たして、キッチン側はユーティリティの機能を持ち、リビング側はテレビやオーディオなどの収納兼飾り棚というように狭いスペースでフルに活用できる収納家具でした。

# 設計段階から計画

快適収納を考える 最終回

スガ悪くなるのはよく見かける光景です。少し値段は高くつくかもしれませんが、設計段階で造作家具を計画すれば、キッチンとリビングの間仕切りの役割も果たして、キッチン側はユーティリティの機能を持ち、リビング側はテレビやオーディオなどの収納兼飾り棚というように狭いスペースでフルに活用できる収納家具でした。

以前、依頼を受けたオーダー家具でその家のスペースに合わせた収納家具を造ったことがあるのですが、その家具はともユニークでした。キッチンとリビングの間仕切りの役割も果たして、キッチン側はユーティリティの機能を持ち、リビング側はテレビやオーディオなどの収納兼飾り棚というように狭いスペースでフルに活用できる収納家具でした。

前回は見せる収納、隠す収納の例を挙げま

造作家具と収納計画

したが、今回は造作家具について例を挙げてみたいと思います。写真1、2はキッチンの収納計画です。清潔感のある白を基調にし、収納をたっぷりとりあげます。キッチンの収納計画で見落とされ



写真3 / 壁に埋め込んだチャンネル型サポート。ハンガーパイプや棚板が自由に増やせる

したが、今回は造作家具について例を挙げてみたいと思います。写真1、2はキッチンの収納計画です。清潔感のある白を基調にし、収納をたっぷりとりあげます。キッチンの収納計画で見落とされ

写真3はベッドルームに設けたクローゼットですが、壁にブティックなどでよく見かけるチャンネル型サポートを埋め込んであります。棚板の微妙な高さが調節でき、部材も豊富にそろっているのでハンガーパイプを取り付けたり、棚板を増やしたり、収納する物の量や種類、収納の仕方など

収納計画の変更が自由にできます。収納する物によっては換気が必要なもの、重量があるため強度補強が必要になるものがあるため、あらかじめ設計者または施工業者に伝える必要があります。

インテリアとコーディネートしながら細かい部分まで対処するには計画の段階でインテリアプランナーやコーディネーターへ依頼するとよいでしょう。現場経験をもとにきつといいアイデアを出してくれることでしょう。(MOVE PLANNING/インテリアプランナー)



▲写真1 / リフォーム後。既存のキッチンを使用。扉は清潔感のある白に張り替え、全体を統一。バックの食器棚は扉とそろえた。奥には電化製品とゴミ箱のスペースを確保



▲リフォーム前 / 全体的に暗いイメージ。キッチンのつり戸が高く使えなかった



▶写真2 / キッチンに設けた造作食器棚。スペースに合わせて造ったので無駄なスペースがない。棚板は可動式になっているので、食器に合わせて高さ調節ができる